情報公開文書

2023 年 3 月 29 日作成

Ver.1.0

食道癌術後の栄養状態の変化と予後の関連についての研究

1、研究の目的と意義

本研究は、食道癌患者さんの食道切除後の栄養状態の変化が予後に影響するかを明らかとし、栄養状態悪化に影響する因子や栄養状態を来しやすい症例の検出を行いたいと考えております。本研究の結果によって、術後の重点的な栄養療法の重要性が認識され、急激な栄養状態の増悪例に対して早急に治療介入を行うことができます。再発の危険性が高い症例を発見し、なるべく早期に治療開始することで、長期予後が期待できる可能性があります。本研究は食道癌患者の予後改善に関して、果たす役割は大きいと考えられます。

2、対象となる患者さん

2007 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日まで、当科で食道癌に対して食道切除(食道亜全摘及び胃管再建術)が施行され、術後病期診断が食道癌Ⅱ期及びⅢ期の患者さんです。かつ、術後の継続的な外来通院が 3 年間以上経過し、定期検査や CT 検査等を施行している患者さんです。

3、研究の方法

食道癌に対して食道切除術を施行した患者さんのカルテよりデータを抽出し、各種患者さんの術前術中術後臨床因子、体格、栄養・免疫学的指標などを検討します。2007 年 1 月 1 日から 2019 年 12 月 31 日まで、当科で食道癌に対して食道切除が施行された術後病期Ⅱ期もしくはⅢ期で、術後３年間の外来通院が終了した症例を後方的に解析して検討します。

4、研究に用いる情報

＜収集する資料及び情報＞

① 入院時の患者基本情報：年齢、性別、合併疾患の既往
② 入院時の体格、血液生化学検査所見、栄養学的指標、腫瘍学的検査所見、術前病期
③ 食道切除の内容(出血や手術時間、術後合併症)
④ 術後血液生化学検査所見、術後病期
⑤ 術後１年目の体格、血液生化学検査所見、栄養学的指標

本研究はカルテより上記の情報の提供を受けて実施する研究です。

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

2023 年 6 月 27 日～2024 年 03 月 31 日

6、外部への情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

≪研究責任者≫

長崎大学病院　腫瘍外科　田上幸憲

8.お問い合わせ先

長崎大学病院　腫瘍外科　田上幸憲

〒852－8501　長崎市坂本１丁目７番１号

電話：095（819）7304　　FAX　095（819）7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課　095（819）7616

受付時間　　：月～金　　9：00～17：00（祝・祭日を除く）